

公園づくりは一步ずつ前へ。

現在進めている公園づくりは、市民の皆さんや地権者のご理解をはじめ、国や県、民間企業の皆様のご理解と熱意のもと、その実現に向けて一步ずつ前へ進んでいます。

◎公共事業豆知識

今回、メインとなる施設の整備には「PFI」という手法を活用します。PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)とは、民間企業の資金と経営能力・技術力(ノウハウ)を活用して、公共施設等の設計、建設、改修、更新や維持管理運営を行う公共事業の手法です。今回、各種法令等に基づき、透明性と公平性を確保した事業者募集や審査を実施し、このほど事業提案があった企業と事業実施に向けた基本協定を締結しました。今後については、12月議会に本契約の議決を諮り、工事を着工する予定です。

公園づくりは一步ずつ完成に向けて進んでいます。今回の特集を読んで、「親子で遊びに行きたい!」「親戚を連れて行こう!」「この施設で働いてみたい!」「お店を出してみたい」など、様々なことを感じられたのではないのでしょうか。

南の拠点と位置づけているこの公園は、「老若男女、地域住民、観光客、みんなが楽しめる公園をつくる」ことを整備方針としています。公園づくりには、多くの皆様からのご理解と、施設に寄せられる期待が必要で、地元はもちろんです。市外から訪れる人まで楽しめる、新しい垂水を創生していくためにも、引き続きご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。



◎上記イメージ写真は、新しい公園の全体イメージです。なお、エリアは整備計画中のため、今後変更の可能性があります。
◎エリアの数字は、前ページで紹介しているエリアとリンクしています。(1メインエリア 2道の駅の登録を目指すエリア 3子ども広場エリア 4海岸エリア(展望デッキ等) 5マリン施設エリア 6・7民間整備活力エリア)

新しい「楽しい」は、浜平で。

整備を予定している浜平(国道220号線沿い)のおおよその位置は、北は別館江洋館から南は給食センター手前までの海岸線沿いを予定しています。

新しい公園は、「海と親しむ」ことをテーマの一つとしています。整備を進めている浜平の浜は、藩政時代から昭和初期にかけて、「製塩」が盛んだった場所の一つです。垂水は海に面していることから、製塩に好条件でした。海水を煮詰めて塩を作る方法から、塩田(がた)に海水をまいて、濃度の高い塩水を取り、それを煮詰めて製塩する「揚浜式塩田法」で行われていました。明治38年には、塩専売法が制定され、塩を貯蔵する倉庫が現在の市民館近くに建設され、明治43年には垂水塩業組合も設立されるなど、産業として次第に盛んになっていきました。大正末期には、海外からの塩輸入により国内製塩業も衰退し、昭和4年には垂水でも塩田整備が行われ、製塩業は廃止され、一つの歴史に幕が下りました。新しい公園では、そんな歴史のある場所を、今の時代にあった活用方法として、多くの人が楽しみ、そして地域経済の活性化に寄与する場所として新たに整備するものです。

